

時代を撃て！少年はまるでTVのリモコンに触るかのように、銃の引き金を引いた。



アサシンズ ASSASSIN(S)

マチュー・カソヴィッツ + ミシェル・セロー + メディ・ベノーファ



監督・脚本・主演：
マチュー・カソヴィッツ

Lazennec présente un film de **Mathieu Kassovitz** avec **Mehdi Benoufa**, Robert Gendreu, Daniele Lebrun scénario Mathieu Kassovitz et Nicolas Boukhrief musique originale Carter Burwell Photo Pierre Aim cadre Georges Diane assistant réalisation Eric Pujol décor Philippe Chiffre montage Mathieu Kassovitz et Yannick Kergoat son Bernard Aubouy montage son Gérard Hardy mixage Dominique Dalmasso effets spéciaux sonores Vincent Tulli direction de production Xavier Amblard producteur Christophe Rossignon produit par Lazennec Films en coproduction avec Le Studio Canal+, La Sept Cinéma, TF1 Films Production, Kasso inc. Productions avec la participation de Canal+, ZDF/ARTE distribué par MKL pour Lazennec Diffusion bande originale du film disponible sur compact disc Milan ASSASSIN(S) sur Internet : www.assassins97.com



配給：KUZUI エンタープライズ

97 カンヌ映画祭正式出品

一般映画 (R)



REVIEW

「カソヴィッツがより強く、熱く、危険な映画とともにカンヌ映画祭に帰ってきた。」・・・STUDIO MAGAZINE

「カラーなのに、ノワール（黒）を感じさせずにはいない」・・・PREMIERE

「ミシェル・セローはカソヴィッツの新作『アサシンス』で観客を釘付けにするだろう」・・・LE FIGARO

「すごいオーラを発する映画!!」・・・LIBERATION

「圧倒の連続。」・・・FRANCE-SOIR



1997年/フランス・ドイツ合作/130分/カラー/
アメリカンビスタ/DTS,SRDデジタル/7巻3,562m/
サントラ盤: BMGジャパン/日本語字幕: 寺尾次郎

アサシンス ASSASSIN(S)

INTRODUCTION

「憎しみ」から2年。
マチュー・カソヴィッツは
また見るものに衝撃を与え、
論議を巻き起こす映画を誕生させた!!

弱冠27歳、長編2作目にしてカンヌ国際映画祭の監督賞を受賞したマチュー・カソヴィッツ。パリの若者たちの鬱屈した気分を、冷徹に、シャープに切り取って、フランス国内はもちろんのこと全世界の若者に熱狂的に支持された「憎しみ」から2年。常に時代と対峙するカソヴィッツは、より深くより今日的な“現実”を渾身の力をもって提示した。

鋭い眼光に異様な緊張感をみなぎらせる老人ヴァグネル。彼は40年以上にわたって、まるで職人のように暗殺者という仕事に誇りを持って生きてきた。

仕事にも私生活にも情熱や欲望を見い出せない25歳の青年マックス。彼を見て自分の後継者にとらんだヴァグネルは、殺しのテクニックと心得を伝授し始める。しかし、暗殺者になるためには感傷的で繊細すぎたマックスは、13歳の少年メディアにその任を預けようとする。テレビで育ち、ストリート・カルチャーにどっぷ

り浸かったメディアは、はたしてヴァグネルの弟子になれるのだろうか？

「アサシンス」は、バイオレンスについて語るフィルム・ノワール。いっさいの妥協のない、大胆かつ辛辣な映画。見る人に衝撃を与え、論議を巻き起こさずにはおかない。私たちは、もう現実から目を背けてはいけない。これは、今だからこそ作られ、今だからこそ見なくてはならない映画なのだ。

プロデューサーは長編デビュー作「カフェ・オ・レ」の「憎しみ」に続いての盟友ともいうべきクリストフ・ロシニョン。また、「ブラッド・シンプル」から「ファーゴ」までコーエン兄弟のすべての作品を手がけているカーター・パーウェルが、コーエン兄弟のファンでもあるカソヴィッツの要請に応じて音楽を担当。ハイ・ピッチの尖ったサウンドと陰鬱なインストルメンタルという両極の対比で、映画の緊張感、孤独感を際立たせている。

Mathieu Kassovitz

マチュー・カソヴィッツ

フランス映画界を代表するニュー・ホープの一人。彼は25歳にして既に、監督、俳優として注目を浴びていた。3本の短編を撮った後、93年に発表した長編デビュー作「カフェ・オ・レ」（兼脚本・出演）は、本国のみならずニューヨーク映画祭でも高い評価を受けた。これは、人種が交錯する男女の三角関係の一角をになうユダヤ人の自転車メッセンジャーを主人公にした物語。自己パロディ的なテイストが、スパイク・リーやウディ・アレンとも比較された。パリ郊外のバンリューを舞台に社会の残酷性を描いた「憎しみ」で、95年のカンヌ国際映画祭監督賞を受賞している。

フィルモグラフィ

監督作品

- 1990 Ferrot le pou (短編)
Peuples du Monde
(ビデオクリップ)
- 1991 Cauchemar blanc
(短編・91カンヌ映画祭
ベルスベクトイ賞)
- 1992 Assassins (短編)
- 1993 カフェ・オ・レ
(パリ映画祭審査員特別賞/
94セザール賞初監督作品部門
ノミネート)
- 1995 憎しみ
(95カンヌ映画祭監督賞・
演出賞/
96セザール賞作品賞・
編集賞)
- 1997 アサシンス

出演作品

- 1978 Au Bout du Bout du Banc
(ピーター・カソヴィッツ監督＝実父)
Ferrot le pou (自身の監督作)
- 1992 Assassins (自身の監督作)
- 1993 カフェ・オ・レ (自身の監督作)
- 1994 天使が隣で眠る夜
(ジャック・オーディアル監督)
(95セザール賞最優秀新人男優賞)
- 1996 Un héros très discret
(ジャック・オーディアル監督)
- 1997 フィフス・エレメント
(リュック・ベッソン監督)
- 1997 アサシンス
- 1998 Le Plaisir
(ニコラ・ブクリエフ監督、
共演: ヴァンサン・カッセル)



KUZUIエンタープライス

“暴力に対する嫌悪から生まれた映画”

カソヴィッツはこの映画を暴力に対する嫌悪感から生まれた作品だと言う。バイオレンスによってそれを告発する、反バイオレンス映画だ。「僕らには、口当たりのいい映画を作る気はさらさらなかった。もし僕に13歳の弟がいたとしたら見せたくないと思う。きちんと考える場を設けない限り、僕は子供たちを暴力に曝そうという気は全くない。僕はこの映画が討論のきっかけになればいいと思っている。そして、この映画を見て人々が疑問を抱いたら、映画の目的は果たされる。その疑問とは「アサシンス」を見た若者が、老人の家に押し入り、殴り殺すような行為に走る可能性があるか否か？」答えはノーに決まっている。なぜなら、この映画は逆に暴力に対して嫌悪を抱かせるものだから。」



【スタッフ・キャスト】

監督+脚本+主演 ●マチュー・カソヴィッツ
出演 ●ミシェル・セロー ●メディア・ベノーファ
脚本 ●ニコラ・ブクリエフ

プロデューサー ●クリストフ・ロシニョン
共同製作 ●ル・ステューディオ・カナル・ブリュス
ラ・セット・シネマ

TF1・フィルム・プロダクション
カソ・インク・プロダクションズ
製作 ●ラズネック・フィルム

6/27 土 よりロードショー

11:15 / 1:50 / 4:25 / 7:00

前売一般=1,400円 (当日一般=1,700円 当日学生=1,400円)

ホワイティうめだ泉の広場上がる 東へ5分

扇町ミュージアムスクエア

06-361-0088